

大連編

岡田水産株式会社 ~ 大連岡田水産有限公司 ~

当社(大連岡田水産有限公司)は、ししゃもの国内販売シェア30%を有する岡田水産株式会社(本社：山口県下関市、水産食料品製造業)の100%出資子会社です。ししゃも加工を中心に、アジ、サバ、ホッケの干物・みりん漬、冷凍加工品を製造しています。

平成9年10月に事業拡大を目的に大連に進出し、平成16年4月に法人成りしました。当初は、加工業者の施設を間借りし生産していましたが、業容が拡大するにつれ生産拠点が点在し非効率になったことから、平成19年1月、大連市金州区に新工場の建設に着手し、平成20年2月に完成しました。敷地面積4万㎡、建坪3,790㎡の新工場は従業員600名(内男性100名)を抱え、月間出荷量400tの大規模なものです。

当社製品は、ほぼ100%日本向けに生産されていますが、新工場完成と同じ時期に発生した中国餃子事件の影響で輸出がストップしてしまい、約1ヶ月間の操業停止に見舞われました。しかし、当社の危機管理能力は高く、出荷停止後直ぐに北京の公的機関での品質検査を実施、品質検査をクリアし出荷許可を取得出来たことで、被害を最小限に食い止めることが出来ました。現在も、多くの企業が日本向け水産食料品輸出を制限されている中、当社製品へのニーズは非常に高まっており、今後の事業拡大が期待されます。

また、流通網等ハード面の発達に伴い、中国の食生活は大きく変化しています。その変化を捉えることがビジネスチャンスであり、工場稼働率の向上にも繋がっていきます。さらに、不測の事態へ対応するとの考えから、日本向けに加え、中国国内販売向けの製品製造を新たな戦略として志向しています。

最後に、当社董事長である岡田水産株式会社の岡田副社長は、現地責任者として新工場建設から現在に至るまで、従業員と寝食を共にしています。技術力は勿論ですが、経営者が率先垂範し、自ら働く姿を周りに見せることが、中国ビジネス成功の最大の秘訣ではないかと感じました。(宮城 正志)



岡田水産(株)岡田社長(右)と、岡田副社長兼大連現地法人董事長



現地工場外観

PROFILE

現地法人名 / **大連岡田水産有限公司**

住 所 / 大連市金州区七頂山郷陸海村17路17号
T E L / +86 411 8778 4237
F A X / +86 411 8778 4395

親会社名 / **岡田水産株式会社**

住 所 / 山口県長門市油谷伊上1755番地 1
T E L / 0837 32 1101
F A X / 0837 32 2577



ししゃも選別作業

香港・シンガポール

今年1月、アメリカのシンクタンク、ヘリテイジ財団が発表した「世界の国・地域経済自由度ランキング」において、香港は14年連続で世界1位に選出されました。このランキングは、ビジネス環境における評価項目を数値化したもので、香港は、貿易・財政・投資・金融面での自由度が特に高く評価されています。

この自由度ランキングの中で毎年香港とトップを争っている国が、シンガポールです。香港、シンガポール両都市は、「アジアの経済自由都市」としてアジア経済を牽引しています。

今回は、両都市の中心産業である、物流〔海運・空運〕、金融〔証券市場〕に焦点を当てレポートします。



シンガポール中心部

物流〔海運・空運〕

自由貿易港として発展する香港、シンガポール両都市は、アジアにおいて「物流ハブ港」として重要な役割を担っています。

コンテナ取扱高は表1、2のとおり、中国の急激な経済発展と港湾施設の整備により、華東地区の上海、華南地区の深セン両港が急増していることがわかります。

しかし、香港は2007年に上海に抜かれ3位となるまでの間、圧倒的な海運コンテナ取扱高(TEU: twenty foot equivalent units 20フィートコンテナ1個分が単位)で、トップのシンガポールと争ってきました。

それは香港が、家電、通信機器、繊維、玩具などの工場が集積する中国広東省を背後に有し、それら製品の輸出中継基地として発展してきたからです。ところが、米中の貿易不均衡の大きな原因とされる繊維産業に対する輸出規制強化、玩具への有害物質混入問題等から、取扱高は近年伸び悩んでいます。また、深センは労賃が安く、規制緩和や港湾設備の近代化に積極的なのに比べ、香港は港湾コストが高いことも、取扱高伸び悩みの要因となっています。

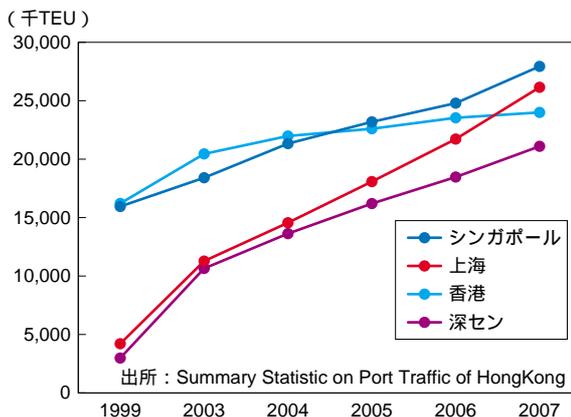
一方、シンガポールは、中国とインド、アジアと欧米、インド・中東と日米をつなぐ中間点に位置するという地理的優位性から、これまで、各地域向けの荷物

表1 海運コンテナ取扱高世界ランキング

	2006年		2007年	
	都市名	取扱高(千TEU)	都市名	取扱高(千TEU)
1	シンガポール	24,792	シンガポール	27,936
2	香港(中国)	23,539	上海(中国)	26,150
3	上海(中国)	21,719	香港(中国)	23,998
4	深セン(中国)	18,470	深セン(中国)	21,099
5	釜山(韓国)	12,039	釜山(韓国)	13,260
6	高雄(台湾)	9,775	ロッテルダム(オランダ)	10,791
7	ロッテルダム(オランダ)	9,653	ドバイ(アラブ首長国連邦)	10,653
8	ドバイ(アラブ首長国連邦)	8,923	高雄(台湾)	10,257
9	ハンブルグ(ドイツ)	8,862	ハンブルグ(ドイツ)	9,890
10	ロサンゼルス(アメリカ)	8,470	青島(中国)	9,462

(出所) Summary Statistics on Port Traffic of Hong Kong 2008年1月版より作成

表2 四大港コンテナ取扱高推移



の積み替えを主として取扱高を伸ばしてきました。

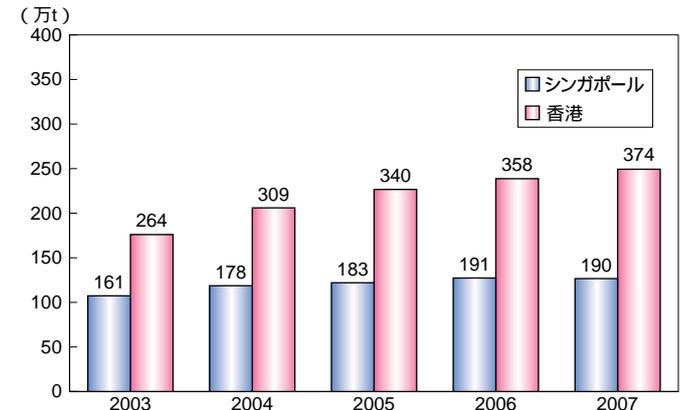
中国港湾施設の近年の発展ぶりからすると、数年後には、深セン、上海が1、2位になるものと予想されています。

取扱高の順位では後退するものの、コンテナ取扱高上位4港湾都市と5位以下は依然として大きな差があります。また、国際積み替え取扱高は、フリーポートとして実績のある香港・シンガポール両都市が、上海、深センに比べると依然として多く、あらゆる地域への航路が集結した香港・シンガポールの利用価値も依然として高いことから、地位が低下しているとはいえないでしょう。

次に、空運業ですが、空港貨物の取扱高において、表3、4のとおり、香港がシンガポールはもとより他の空港に対して大きく水をあけています。これは香港が海運と同様、輸出中継基地として、世界各国の都市に様々な路線を持っていることと、まだ政治・政策上制約の多い中国本土の航空貨物を一旦香港に集約し、各地に送ることが主流となっているためです。

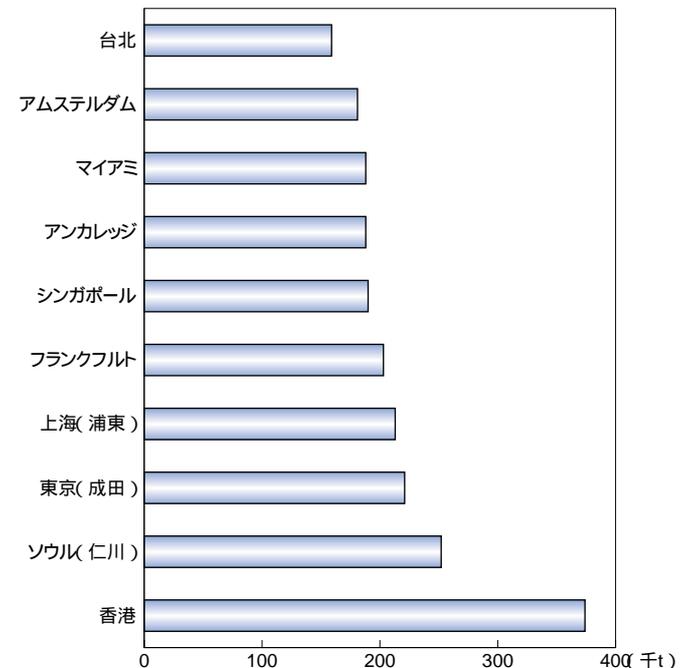
香港・シンガポール両都市の空港は、取扱高では差がありますが、両者とも近代化設備を備えた巨大な「ハブ空港」です。イギリスの調査会社による顧客満足度調査では、毎年世界1位の座をめぐるライバル関係にありソフト・ハード両面にすぐれた空港としても知られています。

表3 空港貨物取扱高推移



(出所) 各空港ホームページより作成

表4 2007年世界空港貨物取扱ランキング



(出所) 香港空港ホームページ(ACIのデータ)

金融面〔証券市場〕

一方、アジアの金融は、東京、香港、シンガポール、上海が、「アジアの国際金融センター」の座をめぐる熾烈な争いを繰り広げています。証券取引所の規模でいえば、香港とシンガポールは、東京、上海に遅れをとっているといえます。しかし、規制緩和や市場の自由化を進める両都市は、東京、上海に比べ自由度が非常に高く、先進的な取引所であるといわれています。

特に近年シンガポールは、証券取引所の時価総額では小さいものの、国内企業のみならず、中国・近隣の



香港金融街「セントラル地区」

表5 2008年3月時点での世界の証券取引所時価総額

(単位: 百万USD)

	証券取引所	国名	時価総額	登録企業数	内外国企業数	外国企業割合
1	ニューヨーク	アメリカ	14,225,517	2,305	414	18%
2	東京	日本	3,971,393	2,416	25	1%
3	ユーロネクスト	EU	3,863,663	1,032	-	-
4	ナスダック	アメリカ	3,470,380	3,044	339	11%
5	ロンドン	イギリス	3,394,869	3,273	711	22%
6	上海	中国	2,586,282	861	-	-
7	香港	中国	2,176,888	1,244	10	1%
8	ドイツ	ドイツ	1,905,400	858	100	12%
9	トロント	カナダ	1,863,985	3,993	78	2%
10	スペイン	スペイン	1,730,744	3,575	39	1%
21	シンガポール	シンガポール	486,485	770	297	39%

(出所) World Federation of Exchanges レポート2008年3月分より作成

アジア諸国の企業の誘致を積極的に行ったり、各種ETF(上場型投資信託)やREIT(上場型不動産投資信託)が多く上場しており、アジアでの存在価値を高めています。

外国人投資家にとって非常に規制が多く、投資先数の少ない上海市場に比べ、魅力のある香港は、世界各国からの投資資金を集め、中国企業の資金調達の受け皿としての価値を高めています。

また、中国では、人民元流通過剰によるバブル化が懸念されており、人民元を外貨へ転換し、海外へ投資することが必要といわれています。そこで中国の一部でありながら、香港ドルというUSドルに連動した通貨で取引される香港証券取引所は、第一優先の『海外投資先』として考えられています。現在の法律上、中国本土住民による海外直接投資は出来ませんが、やがて解禁されれば、香港市場が中国本土投資家の『海外投資先』となり、さらなる巨大市場に変化する可能性があります。

最後に

近年、両都市ともに、中国を中心とする、アジア地域の経済発展の恩恵を受け、GDPは高成長を遂げています。一人当たりのGDPは、香港とシンガポールは、ほぼ同等で、アジア地域の中では、豊かな都市である事がわかります。

また、両都市は中華系が人口の大半を占めている中国語圏である点や、アジア各国の中では数少ない「英語がビジネスで通用する都市」である事も共通点として挙げられます。両都市ともに教育レベルは非常に高く、現在のビジネスには不可欠な「中国語・英語」を操る人材が豊富です。

拡大を続ける中華圏ビジネスの中心として位置するビジネス自由都市、香港・シンガポールは、『中国・アジアビジネスのゲートウェイ』『アジアのビジネスハブ』として、今後更なる発展が期待されます。

(平松 毅一郎)

参考文献: 加藤 修 監修 「チャイナ・プラスワン」NNA

表6 両都市の概要

	香港	シンガポール
面積(km ²)	1,104	697
人口(千人)	6,978	4,185
公用語	中国語(北京語-生活上は広東語)、英語	英語、中国語(北京語)、マレー語、タミル語
一人当たりGDP(USドル)	27,504	29,917
失業率(%)	4.8	2.7
在留邦人数(人)	26,000	26,000

(出所) ジェトロホームページ 2006年のデータ